

# プロフィール



with 動植物検疫探知犬(通称くんくん)  
農林水産省動物検疫所神戸支所にて(2017.1.31)

- ★ 氏名：末吉益雄(すえよしますお)
- ★ 出身高校：宮崎大宮高校
- ★ 出身大学：宮崎大学
- ★ 最終学歴：宮崎大学大学院農学研究科修士課程獣医学専攻
- ★ 学位：博士(獣医学)(北海道大学・1992年)
- ★ 専門分野：産業動物衛生学

## ★ 職歴：

年月	事項
S.58.04	農林水産省入省 家畜衛生試験場注 <sup>1)</sup> 企画連絡室 (農林水産技官研究職) 畜産局衛生課総括&国際防疫班 併任
S.58.10	家畜衛生試験場飼料安全性研究部毒性病理学研究室
H.02.04	家畜衛生試験場九州支場第二研究室
H.04.04	家畜衛生試験場九州支場主任研究官
H.08.10	家畜衛生試験場九州支場臨床病理研究室室長(～至 H.10.03)
H.10.04	文部科学省転任 宮崎大学助教授農学部(～至 H.15.03) (文部教官教育職)
H.10.10	山口大学大学院連合獣医学研究科助教授併任(～H.15.03)
H.11.04	九州東海大学 非常勤講師 併任 (～至 H.13.03)
H.15.10	国立大学法人 宮崎大学農学部助教授 (～至 H.19.03)
	国立大学法人 山口大学大学院連合獣医学研究科助教授併任(～H.19.03)
H.19.04	宮崎大学農学部准教授(～H.23.08)

H.20.04	山口大学大学院連合獣医学研究科准教授併任(～H.22.03)
H.21.04	宮崎県立農業大学校非常勤講師 併任 (～H.29.3.31)
H.22.04	東京農工大学農学府・農学部 講師 併任(～H.21.09)
H.22.04	山口大学客員准教授(～至 H.24.3.31)
H.22.04	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科准教授(～H.23.08)
H.22.04	東京農工大学農学府・農学部 講師 併任(～H.22.09)
H.23.04	東京農工大学農学府・農学部 講師 併任(～H.23.09)
H.23.08	宮崎大学農学部獣医学科教授(～至現在)
H.23.08	宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科教授(～至現在)
H.24.04	山口大学 客員教授 (～H.28.3.31)
	東京農工大学農学府・農学部 講師 併任(～H.24.09)
H.26.04	東京農工大学農学府・農学部 非常勤講師 併任(～H.26.9.30)
H.27.04	東京農工大学農学府・農学部 非常勤講師 併任(～H.27.9.30)
H.28.06	(一社)宮崎県獣医師会理事(～至現在)
R.03.10	宮崎大学農学部獣医学科長(～R.4.3.31)
R.05.06	(一社)宮崎県獣医師会会長(～至現在)
R.05.10	鹿児島大学共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究(SKLV)センター特任教授(～至現在)

注<sup>1)</sup> 現在は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門と改組され、名称変更されています。

## 研究テーマ

- ・産業動物(家畜、牛、豚、鶏)の疾病予防に関する調査・研究
- ・畜舎内の異臭・有害微生物低減化および畜舎外排出悪臭・有害微生物低減化対策

## 研究概要

家畜の疾病予防獣医学研究を実施しています。

特に、子豚や子牛など若齢動物は病気に弱いため、飼い主の介護に依存しています。サポートとして、病原因子の排除技術の追求、抗病性の追求、環境の快適性の追求を実施しています。

対象動物、主に牛、豚、鶏、馬です。

宮崎県は口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ被災を経験しました。

これらの悪性伝染病のアジア等近隣諸国の発生状況を警戒しつつ、日常から一般疾病についても、発生してから対策をとるのではなく、畜産経営の上で、衛生を取り入れて、発生予防に努めましょう。

また、動物に適した畜舎環境改善について研究しています。

安全な「食」は国家の基盤です。

それを守るために研究をしています。

### (1)子牛の死亡事故防除に関する研究

生後直後から約5ヶ月齢までに多くの黒毛和種子牛が下痢等を発症し、死亡あるいは発育不良となっています。

その原因には、病原性大腸菌、ロタウイルス、コクシジウム、クリプトスポリジウム、クロストリジウム、サルモネラなどが関与しています。

これらの防除法について試験研究しています。

### (2)若齢動物の大腸菌感染症対策

生後20～60日齢の子牛や30～70日齢の子豚が大腸菌症で多く死亡しています。

その原因には、毒素を産生する大腸菌(豚の浮腫病など)が関与しています。

大腸菌感染症防除には抗菌剤として何が有効か、どのような治療方法が効果的か、



あるいは抗菌剤を使用しないで防除する方法はないか、について試験等を実施しています。

#### (3)豚の感染性発育不良症候群対策

国内の養豚場にはブラキスピラ菌やローソニア菌がまん延しており、これらの菌感染により、子豚の発育遅延が起きています。その防除対策について研究しています。

#### (4)養豚場の飼養環境消毒方法の見直し

動物舎に潜んでいる病原体は、次々と入ってくる豚に感染し続けていきます。

動物への投与薬剤を減らすためにも、飼育環境のクリーン化は大事となります。

種々の消毒液、消毒方法、洗浄方法、乾燥期間など条件を変えて、また、赤外線サーモグラフィを応用した調査を実施しています。

#### (5)馬増殖性腸症(馬のローソニア症)の調査・研究

競走馬の離乳子馬で、ローソニア症に罹患し、死亡している症例が、最近、国内外で発生しています。豚増殖性腸炎の病原因子と類似していますが、異なる点もあります。

診断法が確立していないため、各自治体検査機関でも可能な血清学的診断法の確立を目指しています。

#### (6)畜舎環境対策

畜舎内の環境改善および畜舎から排出される悪臭を軽減化するため、アンモニアガスなどを分解・消臭について研究しています。

## キーワード

子牛、子豚、子馬、下痢、死亡、抗生物質、プロバイオティクス、浮腫病、腸管毒血症性大腸菌、ローソニア、豚流行性下痢(P ED)、畜舎環境、異臭ガス

## 共同研究・応用分野など

(独)動物衛生研究部門、農業家畜共済組合(NOSAI)、開業獣医師、家畜保健衛生所、JA 経済連、ワクチン開発・製薬企業、消毒・消臭関連企業、スマート畜産関連企業と共同研究を実施しています。

## 所属学会

日本獣医学会(評議員) The Japanese Society of Veterinary Science(Councilor)

日本獣医病理学会(評議員)Japanese Society of Veterinary Pathology (Councilor)

日本獣医病理学専門家協会(評議員)Japanese College of Veterinary Pathologists

日本産業動物獣医学会 The Japanese Society of Farm Animal Veterinary Medicine

日本豚病研究会(幹事)Japan Pig Veterinary Society(Secretary)

日本豚病臨床研究会 The Japan Association of Swine Practitioners

鶏病研究会 The Japanese Society on Poultry Diseases

日本家畜衛生学会(理事)The Japanese Society of Animal Hygiene

日本の畜産の将来を考える会(幹事)

九州・沖縄アニマルウェルフェア(産業動物)連絡会(幹事)

宮崎県養鶏獣医師協議会(理事)

## 連絡先

電話&FAX : 0985-58-7282

e-mail : [こちらへ](#)

## 調査・研究紹介

私たちは、牛、豚や鶏などの farm animal を病気にさせないための最善の方法は何か、また、病気に罹ってしまった動物を1頭・1羽でも多く助けてやるにはどうしたら良いのかを、農場の生産者や診療獣医師さんたちと話し合いながら探る調査・研究をしています。

当講座は農場現場に赴き、farm animal を病気から衛り、プロダクション・メディシンに努め、明るく・夢のある畜産をサポートする獣医師あるいは獣医学博士の養成を目指しています。

## 現在のテーマ

### ◆畜舎

畜舎衛生環境改善試験

### ◆牛

子牛の死亡事故防除対策に関する調査・研究

子牛下痢症の寄生虫学・細菌学・ウイルス学および病理学的検索

病原大腸菌の特性に関する研究

### ◆豚

発育不良症候群としてのローソニア感染症(豚増殖性腸症)対策

生菌製剤(プロバイオティクス)の宿主への免疫学的作用

赤外線サーモグラフィーを活用した異状の早期発見の検討

### ◆馬

ローソニア感染症(馬増殖性腸症)の診断法の確立と疾病対策

健常馬腸内フローラの薬剤感受性

### ◆鶏

ブロイラー養鶏場における事故雛の疫学調査と環境衛生調査

養鶏場内への野生動物侵入防止対策

### ◆〈番外編〉野生動物(イノシシ・シカ)

家畜との共通感染症調査

農場への侵入状況調査

農場への侵入防止対策